

＜第2部＞－パネル討議－

「地域社会で支え合う仕組みづくり」

地域で支え合う仕組みを構想し、自治体と市民の協働、シニアの自助・共助のための社会参加活動、等を語り合います。

■コーディネーター

吉田 成良

高連協専務理事、エイジング総合研究センター専務理事

■パネリスト

原野 哲也

東京江戸川区福祉部長

堀田 力

さわやか福祉財団理事長

徳田 文男

横浜市健康福祉局地域福祉保健部長

馬 利中

上海大学教授



〔はじめに／分科会の趣旨説明〕

吉田：第2部に入りたいと思います。最初に、東京都江戸川区の福祉部長原野さんから区民と共に長年展開してこられた江戸川区の協働事業活動のいくつかについて、お話しいただきます。そのあと、堀田さんはじめパネリストの方々にお話しをいただき、「地域社会で支え合う仕組みづくり」についてパネル討議を行いたいと思います。

〔各パネリストからの報告〕

◆原野 哲也（東京江戸川区福祉部長）

原野：江戸川区の原野でございます。江戸川区は「地域力は人にあり」として、区民と協働しながら非常にユニークな施策を行っていますので、本日はそれをご紹介しますと思います。

○江戸川区の概要

江戸川区は、東京23区の東端に位置し、千葉県に隣接しています。東西を荒川と江戸川に囲まれ、南は東京湾に面しています。面積は49km²、約68万人の区民がおられ、世帯数は約30万世帯です。区域の7割が海拔ゼロメートル地帯です

1 江戸川区の概要

- 東京23区の東端に位置し、千葉県に隣接する。東西を江戸川と荒川に囲まれ、南に東京湾を臨む。区域の7割が海拔ゼロメートル地帯。

<都市データ>

- 面積：49.09km²
⇒23区で4番目
- 人口：680,969人（H23）
⇒23区で4番目
- 世帯数：306,378世帯（H23）
⇒23区で4番目

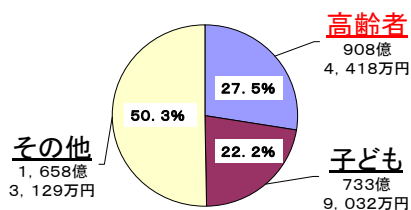


○健全財政に支えられる子どもと高齢者のための予算

江戸川区は年間 3,300 億円の予算がござい
ますが、半分は子どもと高齢者のために
使っています。これは、江戸川区が全国ト
ップレベルの健全財政であるからできるこ
とです。国が約 1,000 兆円の借金があると
言われていますが、江戸川区も平成 13
(2001) 年では借金が貯金を上回っていま
した。そこで、江戸川区は貯金を増やし、
借金を減らす試みを始めました。その結果、
平成 16 (2004) 年以降はずっと貯金が借金
を上回っています。それを可能にしたのは、既存事業の見直しや民間活力の導入、職員の
削減などの取り組みです。たとえば、2000 年度に 5,057 人いた職員は 2011 年度には 3,781
人になりました。この間 1,276 人減らした結果、1,047 億円のコストの削減ができました。
削減した職員の仕事は民間委託で対応しており、浮いたコスト 1,047 億円のうち、約 700
億円は民間委託の費用に充てられています。

2 江戸川区の予算(当初)

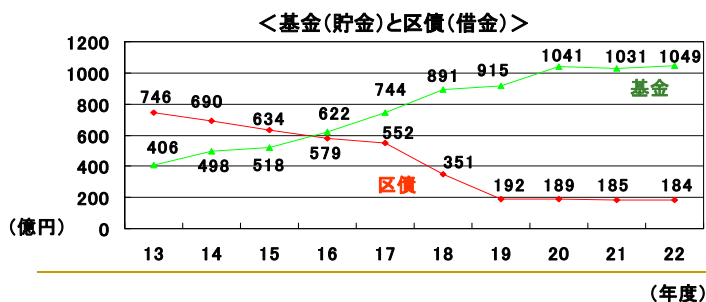
<当初事業予算合計 3,300億6,579万円>



3 全国トップレベルの健全財政

■ 実質公債費比率が3年連続で全国1位

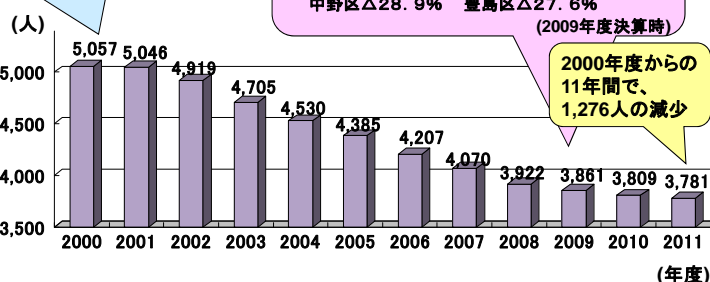
- ・収入に対する借金返済の負担割合が全国一低い。
- ・既存事業の見直しや民間活力の導入、職員の削減など財政健全化に向けた取り組みの成果が表れたもの。



4 江戸川区の職員数の推移

- ・清掃事業移管等の都区制度改革の実施
- ・過去最大の職員数

2000年4月から2009年4月までの減少率
江戸川区 Δ23.9%(23区中、3位)
23区平均 Δ20.0%
中野区Δ28.9% 豊島区Δ27.6%
(2009年度決算時)



区民千人あたりの職員数 5.58人(23区中、2番目に少ない)
区民一人あたりの区の人件費 5.5万円(23区中、1番少ない) 2009年度決算

○江戸川区の特徴

江戸川区の特徴の1番目は若くて活気があることです。まず、区民の平均年齢は41.96歳と非常に若く、23区中1位です。1年間に35,000人ほどの転入・転出がありますが、大体30代の方が8割です。出生率1.36は全国平均を少し下回るぐらいですが、23区中一番高く、年少人口の割合14.56%も23区中一番高いのです。

2番目は、高齢者が元気なことです。介護保険第1号被保険者認定率が13.36%と23区中最も低い。つまり、元気な方が多く、介護保険サービスを受けている方が少ないのです。国民健康保険と後期高齢者医療制度の医療費も平成21(2009)年度一人あたりの年間平均額が36万9,255円で、23区中一番低額です。医者にかかる高齢者が少なく健康であるということです。高齢化率は、18.42%で23区のなかで、中央区、港区に次いで低いほうから3番目です。

特徴の3番目は、水と緑が豊かであることです。公園の数が非常に多い。また、日本で初めて「親水公園」をつくったのは江戸川区です。日本三大金魚の養殖地の一つです。区内に船堀という駅がありますが、この駅舎には華麗な金魚が泳いでいる姿が描かれています。それから、鉄分やカルシウムを多く含む小松菜の発祥の地でもあります。

1972年に江戸川区は、「ゆたかな心、地にみどり」という標語を策定し、その実現に向けて、私たちは区民とともに水と緑豊かなまちづくりを推進してきました。公園面積約350万㎡は、23区で一番広い。公園の数は454あります。親水公園は5ヶ所、親水緑道は18路線です。それから、樹木の数も約601万本あります。区民一人あたりの樹木数を10本にしようと頑張っており

5 江戸川区の特徴(1)

★若くて活気のある街

<データ>

- **平均年齢 41.96歳 (H23)**
⇒23区中1位
- **出生率 1.36 (H22)**
⇒23区中1位
(東京都1.12 / 国1.39)
- **年少人口率:14.56% (H23)**
⇒23区中1位



5 江戸川区の特徴(2)

★高齢者が元気な街

<データ>

- **介護保険第1号被保険者認定率:13.36% (H23)**
⇒23区中1位(最も低い)
- **国民健康保険と後期高齢者医療制度の医療費**
(一人あたりの年間平均額・36万9,255円(H21))
⇒23区中1位(最も低額)
- **高齢化率:18.42% (H23)**
⇒23区中、低い方から3位



5 江戸川区の特徴(3)

★水と緑の豊かな街

- **23区の中で最も公園面積が広い**
- **日本で初めて「親水公園」を創った街**
- **日本三大金魚の養殖地**
- **小松菜発祥の地(江戸時代 8代将軍 徳川吉宗)**



6 区民との協働の歴史(1)

「よりよい都市環境づくり」～ゆたかな心 地にみどり～

1970年～

「ゆたかな心 地にみどり」をスローガンに掲げ、区民とともに、水と緑豊かなまちづくりを推進。

<成果>

- ・ 公園面積 約350万㎡
(23区中1位)
- ・ 公園数 454個
- ・ 親水公園 5個
- ・ 親水緑道 18路線
- ・ 総樹木数 約601万本 (区民一人あたりの樹木数8.8本)



ますが、人口も増えましたので現在のところ8.8本です。

○街の基盤整備

区民との協働の歴史を振り返りますと、まず街の基盤整備です。区域の4分の1に相当する1,200haの区画整理を推進してきました。それから下水道は、1977～1996年の20年間で完備しました。

また、終戦直後江戸川区は小・中学校合わせて33校しかなかったのですが、高度経済成長に伴って増えた人口に対応して学校を増やすことが必要でした。区画整理して生まれた土地もありましたが、住民の方々が自分たちの土地を^{きよしゆつ}醸出して学校をつくりました。ですから、「俺が学校」という意識が非常に強いのです。現在、小学校が73校、中学校が33校、計106校となっています。

○「3大公害」との戦い

1970～1972年に3年続けて、区民が強く結束して公害と戦いました。1970年の葛西ごみ公害、1971年の航空機騒音問題、1972年の成田新幹線江戸川区内通過問題のいわゆる3大公害に対し区民が一体となり、数々の困難を克服しました。このように、江戸川区には区民皆で何かに対して立ち向かおうという歴史的があり、DNAがあります。

○熟年施策における協働

もう1つは、熟年者との協働です。江戸川区では、高齢者のことを高齢者や老人とは言わず、「熟年者」という言い方をしています。「熟年者」は永年の努力で今日の日本の繁栄を築いた社会の尊い財産であるという価値観にもとづいて、私たちは、既に30年前から、この熟年者の皆様を地域で積極的な役割を担う存在として位置づけ、熟年者の皆様との協働によって施策を展開しています。

6 区民との協働の歴史(2)

「まちの基盤整備」～長靴を履かなくてもいい街づくり～

■ 区画整理の推進

区域の4分の1に相当する1,200haの整備

■ 下水道整備(1977年～1996年)

わずか20年の工事期間で100%達成

■ 小中学校用地の捻出

戦後、33校から106校に整備



6 区民との協働の歴史(3)

「3大公害との戦い」～郷土を愛する強い結束～

1970年

葛西ゴミ公害&道路封鎖

1971年

羽田空港航空機騒音

1972年

成田新幹線通過



7 熟年者施策における協働

■ 「熟年者」とは

<歴史>

1983年 区として正式決定

「高齢者」=「熟年者」

<呼称に特徴づけられる江戸川区の姿勢>

・「熟年者」は、円熟した人格と熟慮できる知恵、熟達した技量を持った人である。

・「熟年者」は、永年の努力で今日の日本の繁栄を築いた社会の尊い財産である。



すでに約30年前から、「熟年者」を地域で積極的な役割を担う存在とした施策を展開。